

# 健全児の発達見取り図

つみきの会2006

	身体運動・感覚	物の操作、物を使った遊び	ことば	認知・概念	社会性・関わり遊び	身辺自立
0ヶ月～3ヶ月			2ヶ月 機嫌のいいときに「クー」「グー」などの音を発する。		2ヶ月 あやすと顔を見て笑う 3ヶ月 そばを歩く人を目で追う	
3ヶ月～6ヶ月	4ヶ月 横向きに寝返りできる		3ヶ月 あやすと発声したり、声を出して笑う。 5ヶ月 反復喃語が現れる。過渡的喃語(母音反復)から規準喃語(子音+母音の反復、「ダダ」など)へ。		4ヶ月 イナイイナイパーをすると喜ぶ	
6ヶ月～9ヶ月	6ヶ月 お座りできる	6ヶ月 何でもつかむ、なめる、かむなどする 8ヶ月 物を落として遊ぶ	8～9ヶ月 喃語が活発に。音声模倣の始まり。		7ヶ月 おかあさんに自分から呼びかける。 9ヶ月 共同注視の始まり。母親にほめてもらうための呼びかけやまなざし	
9ヶ月～1才	9ヶ月 つかまり立ちができる 10ヶ月 はいはいできる 11ヶ月 一人で立てる	11ヶ月 電車などを走らせて遊ぶ。箱などのふたを開けたり閉めたりする 10ヶ月～1才半 単語の出現とほぼ同時に、手を広げて飛行機のまねをするなどの象徴的動作ができるようになる	10ヶ月 言葉の理解の始まり(マンマ、バイバイ、ダメ、ちょうだいなどがわかり始める)。 10ヶ月 指さしの出現。非反復喃語出現 10ヶ月～1才3ヶ月 初語の出現(マンマ、ワンワン、バイバイ、プー、ネンネ、ハイ、ニャンニャンなど)		10ヶ月 お母さんに物を見せる。	11ヶ月 コップを自分で持って飲む
1才～1才半	1才3ヶ月 一人で歩く。しゃがめる	1才頃 めちゃめっちゃ描きをする。ブラシを見せると髪をとかずなど、その道具に合った動作ができる	この時期、そんなに言葉は増えない。1才半頃までに30～50語。消える言葉もある。何でも「ワンワン」というなど、限られた言葉で何でも表現する(過剰般化)。盛んに指さして、大人に名前を言ってもらいたがる。 1才4ヶ月 単語+指さしの出現。 1才半までに獲得する主な動詞:遊ぶ、ある、いく、いる、くる、する、食べる、みる、もつ、やる。母音の獲得順:あ→え、お→う、い	1才0ヶ月 お菓子を二枚のお皿に「半分ずつ分けて」と言っても片方に全部入れてしまう。 1才過ぎ 片方に数個入れては、もう片方に数個入れる	1才3ヶ月 幼い子供を見ると近づいていき、服などにさわ	

<p>1才半-2才</p>	<p>1才6ヶ月 走れる。ありや小さい虫を見分けられるようになる。痛いところを指させる。まだチョコキはできない。音の高低が聞き分けられる 1才9ヶ月 高いところからジャンプできる</p>	<p>1才6ヶ月 つみきを2, 3個積める。コップからコップに水を移したり、砂を容器に入れたり出したりして遊ぶ。ふたを回すことができる。押す、引っ張る、包みを開く、ができる 1才9ヶ月 ぐるぐる円を描く。</p>	<p>1才半頃～ことばが爆発的に増加し始める。物の名前を聞く行動や指さしが増える。終助詞「ね」「の」の出現(「おおきいね」「ねるの」)。動詞変化はまだ「る」「た」のみ(たべる、おちた) 名前を言われると「はい」と返事できる。自分の名前を通称で言える。 1才8ヶ月頃 2語文始まる(「ジュース、のむ」「おそと、いくの」「もうないね」「あおいプー」など)。疑問詞「なに」の出現。 1才10ヶ月頃 格助詞(「が、の、に、を」など)出現。助詞の種類増加。しかしまだ「おかあさんのぼうし」など「名詞+助詞+名詞」は言えず、「おかあさんの」か「おかあさん、ぼうし」になる。 疑問詞「どこ」「だれ」の出現 1才11ヶ月頃 「なに」がピークに。 2才までに獲得する発音: パ行、バ行、マ行、タ行、ダ行、ナ行、ワ</p>	<p>1才半 二枚のお皿に半分ずつ分けて、というと一個ずつ交互に分けられる。</p>	<p>1才6ヶ月 父母のしぐさをまねする 1才6ヶ月 自分の物と他人の物を区別できる。自分の物に執着する(「○○ちゃんの!」) 1才9ヶ月 大人に「どうぞ」をして大人が「ごちそうさま」をすると喜ぶ。子供の後をついて歩く。友達と手をつなげる</p>	<p>1才6ヶ月 スプーンですくって食べる。おしっこをしたあとで知らせる 空腹やのどの渇き、おなかの痛みなどを訴えることができる 1才9ヶ月ストローで飲める。靴を脱げる</p>
<p>2才-2才半</p>	<p>2才0ヶ月 ジャンプできる</p>	<p>ミカンの皮がむける。粘土はちぎる程度。まだお団子はできない。縦線、横線の模倣ができる</p>	<p>300語程度言える。簡単な質問に二語文で答えられる。 動詞変化の急増(原形「あける」、過去「おちた」に加え、過去完了「かいちゃった」、誘い「いこう」、願望「のりたい」、否定「おらない」など。「～てる」はやや遅れる。) 3語文、多語文が始まる(主+目+述「こうちゃん、こうえん、いく」、修+被修+述「あかいあめたべた」、修+修+述「もうちよつという」など) 自分の名前を入れて話ができる。 質問、命令形、過去形、未来形を使い分ける。 2才頃獲得する発音: カ行、ガ行</p>	<p>簡単なつみきのモデル(つみき三つで「お山」を見せて、崩してから、「今の作ってね」というと再現できる 自分の写真がわかり始める</p>	<p>2才0ヶ月 子供同士で追いかけっこをする。遊び友達の名前が言える。 親の手伝いをしようとする。</p>	<p>2才0ヶ月 靴をはける</p>

2才半～3才	2才6ヶ月 一段ずつ足をそろえて階段を上り下りする。立って片足を上げられる。つま先立ちができる。チョキができる。利き手が決まってくる。リズムや抑揚がわかる。楽器の音が聞き分けられる	2才6ヶ月 はさみで紙が切れる。見立て遊び、ままごとや乗り物ごっこをする。動物の動きや鳴き声をまねできる。円が描ける。円の中に点を描き、「おかあさん」という粘土でお団子、へび、せんべいを作れる。3才近く まねごっこをする。遅延模倣ができる	500語～1000語言える。「～から～」「～のに～」などの複文を使えるようになる。「もう食べたからおなかすいてないよ」など。「なんで」という問いが始まる。2～3才では、まだ親の話しかけに50%以下しか応答しない。	大小、長短、たくさん少し、きれいきたない、好き嫌い、あまいからいい、おいしいまずい、男女など物の性質を二元的に捉えられるようになる。色や形は違っても、同じ物(ちやわんはちやわん)とわかるようになる。2つまでの数がかかる。3つ以上は「たくさん」物や動物のパーツ(ハンドル、しっぽなど)がわかるようになる。風、雨、雪などの自然現象がわかる。つみきのモデルを見て、まねできる(三つのつみきで、「お山」だけでなく、「車」(L字型)、「門」(間を開ける)がまねできる)3才近く 目の前にない物を探すことができる	同年齢の子と同じ活動ができる。親しい年長児を後追いつける。順番が待てる。照れる、大げさに振る舞う、おどける、怒るなどの感情表現を、相手を見て使い分ける。言ったことを実行しようとする。相手や第三者への依頼ができる。人形の世話ができる	おしっこの前に教えることができる。飲み込まないでぶくぶくができる。ボタンをはめることができはじめる
3才～3才半	ブランコをこげる。三輪車をこげる。足を交互に出して階段を登る。つま先歩行が3歩以上できる。まだ片足で2、3秒以上は立てない。まだケンケンで前進はできない(せいぜい1、2回)。ウサギびよんびよん跳びもできない。腕組み、指組みができる。立って片手投げができる。右手と左手を使い分ける(左手で支えて、右手で操作するなど)。ウインクはできない	顔らしい物を描いて目や口を付ける。十字が描ける。まだ三角や四角は描けない。粘土をまるめるだけでなく、伸ばしたり、平らにしたり、端をケンケンで変形したりできる。粘土で作った物に名前を付ける。つみきでトンネルをつくる。のりを付けて貼り付けることができる。折り紙を折り目を付けておける。折り目を押さえることができる。鉛筆を親指、人差し指、中指の三点で支えられる	文章構成期のはじまり。接続詞(「それで」など)がつかえるようになり、複数の文を構成して、一つのまとまった話ができるようになる。自分の名字と名前が言える。自分の性別、年齢が言える。保育園の名やクラスの名が言える。一番好きな人、一番うれしいことも言える。絵を見せると、絵の内容を超えて、想像したことを織り込んで話ができる。しかし4コマ漫画を見せてストーリーを説明させようとしてもむずかしい。3才頃(2才～4才)獲得する発音:ハ行、シャ行、チャ行、ジャ行	ユーモアの登場(わざと間違えた名前で呼んだりする)3つまでの数を理解する(「1つ、2つ、3つ」と数える。「いくつあったの?」「3つ」といえる。「3つちょうだい」でたくさんの中から3つ選べる)この時期、言葉の意味を聞くと、事例反応が多い。例えば「虫って何?」と聞くと3割が「とんぼ」「せみ」などと答える。「とぶ」「さす」など機能や用途を答える子も15%。3割は無反応。5才になると、機能・用途反応が6割。事例反応が4割。	おままごとでお父さんやお母さんの役になって遊べる。ピストルの撃ち合いごっこができる。お店屋さんごっこや怪獣ごっこができる。大人がいれば、同年齢の子と30分近く遊べる。好きな友達ができる。貸し借りや順番交代ができる。約束ができる。ほめられたり、叱られることに敏感になる。	おはしを使って食事ができる。ほとんどこぼさないでたべられる。服を脱いでたためる。服の前後がわかる。服を着ることができる。しかし小さなボタンはまだ難しい。自分でパンツを脱いでおしっこのことができる。下手でも自分で歯をみがく
3才半～4才	二つの動作を同時にできるようになる。例えばケンケンで前進できる。ウサギびよんびよん飛びができる。	片手で紙を持ってもう片手ではさみで切ることができる。顔を描かせると耳や髪の毛も描ける。頭に直接手足がついた頭足人間が描ける(まだ胴はつかない)	出来事を組み合わせて、言葉で表現できるようになる。	つかれた、つまらない、たいくつ、さみしい、かわいそう、よろこんでる、などの感情がわかる。	かくれんぼで見つからないように隠れることができる。友達と順番に物が使える	

4才	4才 片足けんけんで飛べる 4才半 スキップできる	4才 胴も描けるようになる。 4才半 角や辺を捉えられるようになる。スカートなどの服やリボンが描けるように。家族や友達を描き分けるように。風景画には地面や家、道などが現れる。	4才半 理由を伴う主張ができる(「わたし、〇〇ちゃんが好き。だってやさしいもん」) 「あんた」「おまえ」などというようになる。まだひらかなはほとんど読めない。ひらかなを書き始める。まだ疑似文字(文字のように見えるがでたらめ)が多い。 4才頃(3才～6才)獲得する発音:ツ、ヅ、サ行、ザ行、ラ行		4才 かくれんぼで探す役と隠れる役があることを理解する。自分が負けるとくやしがる。 4才半 友達とお互いに主張し合ったり、妥協しながら遊べる。 友達と競争できる。 鬼ごっこで鬼になったら、他の子を追いかけて捕まえることができる。 こんなことができると友達に自慢する。 かわいそうな話を聞くと涙ぐむ	
5才		5才 思ったものを絵に描く。網でチョウチョやバッタを捕まえる 5才半 経験したことを絵に描く。作る前に作ろうとする物を頭に描けるようになる。画面を上部、中央部、下部に分けて描ける(空、地上、地下など)。太陽や雲が現れる	筋道を立てて説明できるようになる。例えば家から幼稚園までの道のりを具体的に説明できる。 知っている字なら、人が読めるような字で書ける。ひらかなの半分くらいが読める。 5才後半 空想上の世界のお話(ファンタジー)を作ることができる	ここ／そこ／あそこ、右／左／真ん中、前／後ろ／真ん中、など、空間を三元的に捉えることができる。時間も、朝／昼／夜、去年／今年／来年、きのう／きょう／明日、はじめ／次／おわりなどがわかるように。量も多い／中くらい／少ない、長い／中くらい／短いなど真ん中がわかるように。 「同じ」をより本質的に理解できるように。例えばつみきを5つずつ不揃いに積み重ねたものを二つ見せると、「同じ」と言える。	集団で遊ぶ。仲間同士手をつないだり、会話をしながら歩ける。探検ごっこ、海賊ごっこなどができる。	5才 上着を一人で着る。自分の体をタオルで拭ける
6才	6才半 一人でなわとびを飛べる	6才半 絵の具で絵を描く	3000～1万語を獲得。 「ぼくは〇〇です」としっかりした文で、じぶんのことを説明できる。自分の名前、年齢、特徴が4つ以上言える。 ひらかながほとんどすべて読める。		「自分でする」というようになる。相手の立場がわかる。相手の中にも自分を発見し、「自分でしたら」などと言う。相手の体験に自分の体験を重ねて、これまで以上に相手の気持ちがわかるようになる。	6才半 タオルをしばれる

注意:発達には個人差が大きい。この表はあくまで目安であって、子どもによって前後1～2年のずれがあることに留意すること。

#### 参考文献

津守真・磯部景子『乳幼児精神発達診断法—3才～7才まで—』(1965)大日本図書

田中昌人・田中杉恵『子どもの発達と診断1～5』大月書店

大久保愛『乳幼児のことばの世界』(1993)大月書店

秦野悦子『ことばの発達入門』(2001)大修館書店

桐谷滋編『心の発達、ことばの発達 子どもはなにをどのように学ぶのか』(2002)クパプロ